

講義コード	4P024011
講義名	スポーツ理学療法特論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	P4-0907
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

吉田隆紀(理学療法士・スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)  
 谷埜予士次(理学療法士)  
 中尾哲也(理学療法士・スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)  
 三浦雄一郎(理学療法士)

#### 目的

近年、スポーツ外傷や障害について関わる機会が増してきた理学療法士としての役割について学ぶ。加えてスポーツ外傷・障害におけるリハビリテーションプログラムの検討方法や具体的な理学療法アプローチについて講義・実習する。

#### 到達目標

代表的なスポーツ外傷や障害について取り上げて、受傷機転の理解、スポーツ動作の分析と問題点の把握や再発予防に関するポイントと理学療法を考えられるようになることを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／科学的思考力

#### 授業計画

1. 筋腱損傷後の理学療法① (谷埜)
2. 筋腱損傷後の理学療法② (谷埜)
3. 靭帯損傷後の理学療法 (谷埜)
4. スポーツバイオメカニクス (谷埜)
5. 投球障害肩の理学療法 (吉田)
6. 投球障害肘の理学療法 (吉田)
7. 足関節捻挫後の理学療法 (吉田)
8. テーピング (吉田)
9. シンスプリントに対する理学療法 (中尾)
10. 腰椎分離症に対する理学療法 (中尾)
11. 鼠径部痛に対する理学療法 (中尾)
12. インソール補正テーピング療法 (中尾)
13. スポーツ動作の特徴と理学療法① (三浦)
14. スポーツ動作の特徴と理学療法② (三浦)
15. スポーツ理学療法 まとめ (吉田)

## 成績の評価

定期試験によって評価する。

## 定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

## 自己学習

スポーツ動作を改善するために理学療法を展開しますが、解剖学や運動学を基本とするため再度学習しておいてください。授業1コマにつき1コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

## 履修上の注意

スポーツ特有の動きがあるため、スポーツ動作を観察して動きをイメージできるようにしておいてください。

## テキスト

資料を配布します。

## オフィスアワー

月曜日の12:10~13:00 (谷埜)

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00 (吉田)

月曜日~木曜日の12:30~13:00 (中尾)

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室 (谷埜) ・ tanino@kansai.ac.jp

D719研究室 (吉田) ・ t.yoshida@kansai.ac.jp

D719研究室 (中尾) ・ nakao@kansai.ac.jp

講義コード	4P182011
講義名	神経難病理学療法特論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	P4-0905
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

### 担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]、後藤 淳[理学療法士]

### 目的

神経筋疾患理学療法学Ⅰで教授した神経難病であるパーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症のほか、スモン病、ジストニアなどに対する理学療法および在宅での理学療法について、特殊テクニックを中心に講義する。また、神経疾患患者の理学療法において、本学で開発した動作誘導法である臨床動作促通法の理論と実際についても教授する。本特論を通して、神経難病患者への理学療法の可能性を学ぶ。

### 到達目標

神経難病患者の運動療法で用いられる様々な理学療法のテクニックを学習する。

### 授業計画表

### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

### 専門知識／臨床推論力

### 授業計画

#### 鈴木担当

- 1 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 1
- 2 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 2
- 3 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 3
- 4 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 4
- 5 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 5
- 6 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 6
- 7 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 7
- 8 神経難病患者への理学療法特殊テクニック（臨床動作促通法） 8
- 9 まとめ

#### 後藤担当

- 10 神経難病患者への理学療法1
- 11 神経難病患者への理学療法2
- 12 神経難病患者への理学療法3
- 13 神経難病患者への理学療法4
- 14 神経難病患者への理学療法5
- 15 まとめ

### 成績の評価

レポート課題で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート課題内容に関するフィードバックをおこなう。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習をおこなう。神経疾患理学療法学Ⅰ・Ⅱの知識を再学習しておくこと。

テキスト

「神経疾患の評価と理学療法」（アイペック）

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00（鈴木）

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室（鈴木）

講義コード	4P239011
講義名	精神疾患理学療法特論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	P4-0906
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 米田 浩久	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

米田 浩久〔理学療法士〕

#### 目的

本邦における精神疾患に対するリハビリテーションとして、従来、必要性の観点からも法制度的見地からも作業療法の需要は高かったが、理学療法に対しては十分な門戸が開かれていたとはいえない。本講義では、統合失調症などの従来型の器質性精神疾患のみならず、近年注目されているパニック障害や抑うつ障害等に対する理学療法のあり方について最新の知見を踏まえて講義する。特に、今後ますます増加すると考えられる認知症に対して、その病態の理解とともに理学療法や同疾患への運動療法の効果についても講義する。

#### 到達目標

精神疾患固有の問題点の把握と理学療法の取り組みについて考察できることを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

- 1.精神疾患リハビリテーション総論
- 2.精神疾患の症状について(1)
- 3.精神疾患の症状について(2)
- 4.精神疾患の症状について(3)
- 5.各論 器質性精神障害
- 6.各論 統合失調症
- 7.各論 気分障害
- 8.各論 ストレス性障害・不安障害
- 9.各論 精神作用物質による障害
- 10.各論 認知症
- 11.精神薬の身体機能への影響
- 12.各論 てんかん
- 13.精神疾患と臨床心理学
- 14.精神疾患に伴う身体機能の問題点
- 15.総括

#### 成績の評価

定期試験の結果で判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する

### 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の時間をかけて予習と復習を行うこと。特に、心身医学・臨床心理学の講義内容を再確認し、毎回の講義について必ず復習すること。

### テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

### 参考資料

特になし。

### オフィスアワー

火曜日 12時15分～13時

### 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D722研究室・yoneda@kansai.a.jp

講義コード	4P257011
講義名	地域理学療法学各論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	地域理学療法学
科目ナンバリング	P4-0702
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 米田 浩久	指定なし
非常勤	守安 久尚	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

米田 浩久（理学療法士）・守安久尚（理学療法士）・田中健司（理学療法士）

#### 目的

地域でのリハビリテーションを実践している理学療法士の先生方に、臨床での実践について講義して頂く。守安先生には、地域包括ケアシステムにおける理学療法（士）の役割と活動内容、今後求められるあり方について講義をして頂く。田中先生には、保健センターでの理学療法士の役割と活動内容を講義して頂く。保健センターでは、保健師、事務職員との関わりが大切であり、理学療法士としての他職種とのかかわり方についても学習する。米田の講義では、地域理学療法についての概論と関係法規ならびに住宅改修や環境調整についての講義を展開する。

#### 到達目標

聴講する各種地域理学療法に対する理解を深めることを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 地域理学療法学とは
2. 地域包括ケアシステムにおける理学療法（士）の役割
3. 地域包括ケアシステムで求められる理学療法士のあり方
4. 住宅改修について
5. 住宅改修 実習
6. 地域理学療法における保健センターの役割
7. 健康増進事業について
8. 地域包括支援センターと地域理学療法学について
9. 実技 健康増進事業 1
10. 実技 健康増進事業 2
11. 障害者の社会保障制度
12. 生活環境論 1
13. 生活環境論 2
14. 国際生活機能分類 1
15. 国際生活機能分類 2

※ 以上のテーマで各2時間ずつ講義を行う。

## 成績の評価

定期試験の結果で判定する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の時間をかけて予習と復習を行うこと。特に、地域理学療法学総論の講義内容を再確認すると同時に講義の復習を行う。

## テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

## 参考資料

『地域理学療法学ノート』理学療法科学学会 監修（アイペック）

## オフィスアワー

火曜日 12時15分～13時

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D722研究室（米田） ・ yoneda@kansai.ac.jp



講義コード	4P265011
講義名	東洋医学と理学療法特論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	P4-0904
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明〔理学療法士〕

谷 万喜子〔鍼灸師〕

#### 目的

東洋医学、特に鍼灸医学と理学療法を融合して本学で開発した、経穴刺激理学療法の理論と具体的な方法について講義・実習をおこなう。また、東洋医学と理学療法を融合した研究報告をまとめるとともに将来の展望についても講義する。

#### 到達目標

経穴刺激理学療法の具体的な治療技術を把握する。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 経穴刺激理学療法の意義と基本概念 1（鈴木・谷）
2. 経穴刺激理学療法の意義と基本概念 2（鈴木・谷）
3. 経穴刺激理学療法の意義と基本概念 3（鈴木・谷）
4. 経穴刺激理学療法に関する研究成果紹介 1（鈴木・谷）
5. 経穴刺激理学療法に関する研究成果紹介 2（鈴木・谷）
6. 神経疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 1（鈴木・谷）
7. 神経疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 2（鈴木・谷）
8. 神経疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 3（鈴木・谷）
9. 運動器疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 1（鈴木・谷）
10. 運動器疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 2（鈴木・谷）
11. 運動器疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 3（鈴木・谷）
12. 運動器疾患に対する経穴刺激理学療法の臨床応用 4（鈴木・谷）
13. 動作分析と経穴刺激理学療法の関連性 1（鈴木・谷）
14. 動作分析と経穴刺激理学療法の関連性 2（鈴木・谷）
15. まとめ（鈴木・谷）

#### 成績の評価

レポート課題で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の復習を行うこと。1年生で東洋医学と西洋医学を履修した学生には、その内容を再度学習してほしい。未履修の学生は、1回の授業をきちんと把握できるように努力してほしい。本特論は、本学で開発した経穴刺激理学療法を学ぶ重要な科目である。本学でしか学ぶことのできない理学療法特殊テクニックを十分に学んでほしい。

## テキスト

資料を配布する。

## 参考資料

「The Acupuncture for Dystonia—ジストニアと鍼治療—」（電子書籍）編集工房ソシエタス

## オフィスアワー

火曜日 12:30～13:00（鈴木）

月曜日 12:30～13:00（谷）

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階D724研究室・suzuki@kansai.ac.jp（鈴木）

診療・研究棟3階307研究室・tani@kansai.ac.jp（谷）

講義コード	4P266011
講義名	東洋医学概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	P4-0903
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

谷 万喜子〔鍼灸師〕

#### 目的

東洋医学の基礎的知識について講義する。また、「東洋医学と理学療法特論」で講義する経穴刺激理学療法の知識として必要な、経穴に関する講義・実習をおこなう。経穴は身体部位の状況を把握する反応点であり、各内臓器官に連結する経絡に沿って並び、その数は<sup>361</sup>種類ある。この講義を通して、理学療法臨床に活かせる東洋医学的知識と経穴の触れ方の習得を目指す。

#### 到達目標

東洋医学における病態の考え方を、理学療法臨床で応用できるように理解することおよび、経穴刺激理学療法で用いる代表的な経穴について正確に取穴できることを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 東洋医学の基礎 1
2. 東洋医学の基礎 2
3. 東洋医学の基礎 3
4. 上肢の経穴 1
5. 上肢の経穴 2
6. 上肢の経穴 3
7. 下肢の経穴 1
8. 下肢の経穴 2
9. 下肢の経穴 3
10. 体幹の経穴 1
11. 体幹の経穴 2
12. 体幹の経穴 3
13. 復習 1
14. 復習 2
15. まとめ

#### 成績の評価

レポート課題で評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

## 自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。  
経穴の位置や触れ方について、授業中にしっかりと学習すること。

## テキスト

授業中に資料を配布する。

## 参考資料

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

「臨床経穴ポケットガイド 361穴」（医歯薬出版）

## オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

## 研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階307研究室  
tani@kansai.ac.jp

講義コード	4P343011
講義名	理学療法研究法
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	4
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	P4-0908
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明（理学療法士）  
 谷埜予士次（理学療法士）  
 米田 浩久（理学療法士）  
 吉田 隆紀（理学療法士）  
 中尾 哲也（理学療法士）  
 鬼形周恵子（理学療法士）  
 文野 住文（理学療法士）  
 東藤真理奈（理学療法士）  
 山崎 航（理学療法士）  
 福本 悠樹（理学療法士）

#### 目的

理学療法研究は理学療法の発展のために必須である。理学療法は技術先行で発展してきた学問と考えられ、日常行われている理学療法技術に対する効果についても客観的に示されているものはまだまだ十分多いものとは考えられない。あらためて理学療法の効果を客観的に実証していくことは大変重要な作業となる。本科目では理学療法領域での研究方法を講義する。教員の指導に基づき、研究計画の立案と実験をおこない、その結果を考察することを目的とする。

#### 到達目標

研究内容は本学の学修成果発表会もしくは理学療法学科での研究発表会で発表できるようにする。

#### 授業計画表

##### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

##### 専門知識／科学的思考力

##### 授業計画

各授業については担当教員による。

##### 成績の評価

学修成果発表会または理学療法学科内での発表内容にて評価する。

##### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

研究発表内容についてコメント提供や解説を実施する。

##### 自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。実施する研究テーマに関連する論文を読むようにしてほしい。

## テキスト

適宜配布します。

## 参考資料

適宜配布します。

## オフィスアワー

月曜日 12:15～13:00 (谷埜) 、 12:30～13:10 (東藤)  
火曜日 12:30～13:00 (鈴木) 、 12:00～13:00 (米田) 、 12:15～13:00 (鬼形)  
水曜日 12:00～13:00 (山崎)  
水・金以外 12:10～13:00 (吉田)  
月～木 12:30～13:00 (中尾)  
火・木曜日 12:10～13:00 (文野)  
月・金曜日 12:30～13:00 (福本)

## 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室 (谷埜) tanino@kansai.ac.jp  
4号館7階 D722研究室 (鈴木) suzuki@kansai.ac.jp  
4号館7階 D724研究室 (米田) yoneda@kansai.ac.jp  
4号館7階 D719研究室 (吉田) t.yoshida@kansai.ac.jp  
4号館7階 D719研究室 (中尾) nakao@kansai.ac.jp  
4号館5階 D513第1共同研究室  
bunno@kansai.ac.jp (文野)  
onigata@kansai.ac.jp (鬼形)  
todo@kansai.ac.jp (東藤)  
w.yamazaki (山崎)  
fukumoto@kansai.ac.jp (福本)

講義コード	4P346011
講義名	理学療法臨床実習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	6
科目分類・分野名	臨床実習
科目ナンバリング	P4-0803
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明（理学療法士）  
 谷埜予士次（理学療法士）  
 米田 浩久（理学療法士）  
 吉田 隆紀（理学療法士）  
 中尾 哲也（理学療法士）  
 鬼形周恵子（理学療法士）  
 文野 住文（理学療法士）  
 東藤真理奈（理学療法士）  
 山崎 航（理学療法士）  
 福本 悠樹（理学療法士）

#### 目的

理学療法臨床実習Ⅱは、学外の医療提供施設において8週間実施する。本実習の目的は、理学療法評価から理学療法プログラムの作成、そして、模倣レベルでの理学療法を実施することである。また、実習終了後には本実習で得られた知識・技術を学内での症例発表として報告する。本実習はキャリア教育科目である。

#### 到達目標

運動器疾患、神経疾患についてそれぞれ2症例ずつの理学療法評価と理学療法プログラムを作成する。そして、作成したプログラムに基づいて理学療法を実施した後、再評価を行って効果検証できるようになることを目標とする。

#### 授業計画表

#### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

#### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

1. 第1週 情報収集・問診、動作観察・分析
2. 第2週 動作観察・分析、検査・測定
3. 第3週 検査・測定、問題点の抽出
4. 第4週 理学療法プログラムの作成
5. 第5～8週 理学療法
6. 第7～8週 再評価
7. 第8週 まとめ
8. また、第4週間で情報収集・問診より再評価まで終了させる実習形態もある。

#### 成績の評価

実習評価表に基づいて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

実習指導者より実習評価表に基づいてフィードバックする。  
また実習後に開催される実習セミナーでは担当教員よりコメントおよびフィードバックを行う。

#### 自己学習

今までの学内教育の内容を復習しておくことが重要になる。  
また、実習中に指導していただいたこと、見学内容をデイリーノートにまとめることで復習してほしい。

#### 履修上の注意

理学療法臨床実習Ⅱの詳細については、「臨床実習指導要綱」に従うこと。

#### テキスト

「臨床理学療法評価法」(アイペック)  
「運動器疾患の評価と理学療法」(アイペック)  
「神経疾患の評価と理学療法」(アイペック)  
「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」(神陵文庫)

#### 参考資料

適宜紹介する。

#### オフィスアワー

月曜日 12:15～13:00 (谷埜) 12:30～13:10 (東藤)  
火曜日 12:30～13:00 (鈴木) 12:00～13:00 (米田) 12:15～13:00 (鬼形)  
水曜日 12:00～13:00 (山崎)  
水・金以外 12:10～13:00 (吉田)  
月～木 12:30～13:00 (中尾)  
火・木曜日 12:10～13:00 (文野)  
月・金曜日 12:30～13:00 (福本)

#### 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室 (谷埜) tanino@kansai.ac.jp  
4号館7階 D722研究室 (鈴木) suzuki@kansai.ac.jp  
4号館7階 D724研究室 (米田) yoneda@kansai.ac.jp  
4号館7階 D719研究室 (吉田) t.yoshida@kansai.ac.jp  
4号館7階 D719研究室 (中尾) nakao@kansai.ac.jp  
4号館5階 D513第1共同研究室  
bunno@kansai.ac.jp (文野)  
onigata@kansai.ac.jp (鬼形)  
todo@kansai.ac.jp (東藤)  
w.yamazaki (山崎)  
fukumoto@kansai.ac.jp (福本)



講義コード	4P347011
講義名	理学療法臨床実習Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	6
科目分類・分野名	臨床実習
科目ナンバリング	P4-0804
対象学科・学年	理学療法学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷埜 予士次	指定なし

#### 担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明（理学療法士）  
 谷埜予士次（理学療法士）  
 米田 浩久（理学療法士）  
 吉田 隆紀（理学療法士）  
 中尾 哲也（理学療法士）  
 鬼形周恵子（理学療法士）  
 文野 住文（理学療法士）  
 東藤真理奈（理学療法士）  
 山崎 航（理学療法士）  
 福本 悠樹（理学療法士）

#### 目的

臨床評価実習、理学療法臨床実習Ⅰ・Ⅱは主に医療提供施設での臨床実習であったが、理学療法臨床実習Ⅲでは医療提供施設に加えて理学療法士の活躍が期待できる施設での臨床実習をおこなう。実習期間は理学療法臨床実習Ⅰ・Ⅱと同様に8週間とし、具体的な臨床実習施設としては、診療所、小児施設、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、保健センター、在宅支援事業所である。実習終了後には、学生に本実習で得られた知識・技術を症例発表会として報告し、様々な施設での理学療法の特徴を理解することを目的とする。

本実習はキャリア教育科目である。

#### 到達目標

これまでの実習で得られた知識・技術をもとにして理学療法士の役割を知り、様々な施設での理学療法の特徴を理解することを目標とする。

#### 授業計画表

##### ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

##### 専門知識／臨床推論力

#### 授業計画

理学療法臨床実習Ⅲは、様々な臨床実習施設があるために詳細な臨床実習計画は提示しない。8週間の臨床実習で理学療法評価、理学療法ができるだけでなく、卒業後に理学療法士として勤務できるか否かを判断いただけるような臨床実習計画を各施設の臨床実習指導者と教員で作成する。

#### 成績の評価

実習評価表に基づいて評価する。

#### 定期試験、レポート等に対するフィードバック

実習指導者より実習評価表に基づいてフィードバックする。  
また実習後に開催される実習セミナーでは担当教員よりコメントおよびフィードバックを行う。

#### 自己学習

今までの学内教育の内容を復習しておくことが重要になる。  
また、実習中に指導していただいたこと、見学内容をデイリーノートにまとめることで復習してほしい。

#### 履修上の注意

理学療法臨床実習Ⅲの詳細については、「臨床実習指導要綱」に従うこと。

#### テキスト

「臨床理学療法評価法」(アイペック)  
「運動器疾患の評価と理学療法」(アイペック)  
「神経疾患の評価と理学療法」(アイペック)  
「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」(神陵文庫)

#### 参考資料

適宜紹介する。

#### オフィスアワー

月曜日 12:15～13:00 (谷埜) 12:30～13:10 (東藤)  
火曜日 12:30～13:00 (鈴木) 12:00～13:00 (米田) 12:15～13:00 (鬼形)  
水曜日 12:00～13:00 (山崎)  
水・金以外 12:10～13:00 (吉田)  
月～木 12:30～13:00 (中尾)  
火・木曜日 12:10～13:00 (文野)  
月・金曜日 12:30～13:00 (福本)

#### 研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室 (谷埜) tanino@kansai.ac.jp  
4号館7階 D722研究室 (鈴木) suzuki@kansai.ac.jp  
4号館7階 D724研究室 (米田) yoneda@kansai.ac.jp  
4号館7階 D719研究室 (吉田) t.yoshida@kansai.ac.jp  
4号館7階 D719研究室 (中尾) nakao@kansai.ac.jp  
4号館5階 D513第1共同研究室  
bunno@kansai.ac.jp (文野)  
onigata@kansai.ac.jp (鬼形)  
todo@kansai.ac.jp (東藤)  
w.yamazaki (山崎)  
fukumoto@kansai.ac.jp (福本)